じゃりみち

····仮設支援情報····

第４号　　発行日　1995.　10.12

仮設支援連絡会
阪神大震災地元ＮＧＯ救援連絡会議
TEL：078-362-5951 / FAX：078-362-5957
E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

♡全体会のお知らせ♡

次回全体会は、日時：１０月１８日（水）１８時～２０時
場所：協立会館４Ｆ（毎日新聞ビルの隣ビル）です
前回の懇親会は、予想以上の参加者数で大盛況でした。皆様有り難うございました。
第２会も計画中ですのでお楽しみに！
全体会の議事録希望の方は、事務局までご連絡下さい。

◆全国キャラバン実行委員会より◆

10月12日現在3回の実行委員会が開かれました。皆さんお忙しい中ホントにご苦労様です。

全国キャラバンの話が１カ月前に出たときは、ただ被災地に対する後方支援のﾈｯﾄﾜｰｸを作る必要があるといっていたのですが、実は後方支援という視点だけではダメなんだということが、確認されました。それは、私達がこの間約９カ月被災地のいろいろな問題にぶつかってきた中で、判ったことは‘災害弱者’とされている人々は、実は震災前からの‘日常弱者’であったという事です。高齢者、独居、障害者、難病者、外国人、女性等は日常の社会においても‘弱者’の立場に置かれていました。被災地のことを他府県に出て訴えていくと、それは日本各地それぞれの問題でもあると言うことが伝わっていくでしょう。私達は多大な犠牲を払いましたが、大きな教訓を得ました。その教訓を日本中の人々に伝えることが、私達の役割の一つだと思います。他府県に出向くと、現地でボランティアをしている私達はよく「頑張ってください」と言われます。これは少しおかしい。「お互いに頑張りましょう」と言うべきだと気付きました。皆さん大変お疲れでしょうが「お互いに頑張りましょう」

（村井）

★仮設支援キャラバンの実行委員会より★

＜目的＞
阪神全域にある仮設住宅の何カ所かでイベントを行う。その際、各地域で動いているボランティア団体との連携・連絡調整が必要になる。イベントの立ち上げをきっかけとしてボランティア団体同士の連携形態を密にしていく。また、情報の薄いところ(ex姫路・淀川）でイベントを行う事により、全仮設に対する認識・仮設の問題等を対外的にもアピールしていく。
＜日程・場所＞
・１１月４日　姫路にて
具体的に日程・場所が決ったのは姫路。他地域でも、他の団体の企画があれば仮設支援キャラバンとして相乗りできれば。場所については候補として、淀川・室谷・鹿の子台があがっている。
＜イベント内容＞
イベントに関してもまだ未定。ただ、ボランティアが仮設に入って勝手にやっていく、というものではなく、自治会ができているところは自治会の役員の方々と、自治会のできていないところは、住民の方で協力してくれる方を呼びかけて、ボランティアと住民が一緒になってやれるようなものを考案中。
また、各地域に即したもの（虫がわく仮設があれば、害虫駆除など）を住民・ボランティアと打ち合わせによって考えていく。
＜募集します!!＞
☆イベントを行うための物資を募集しています。日用品（毛布・ハンガー・食器類等）・民芸品・日本全国物産品を中心にバザーを行いたいと思います。（古着厳禁！）
☆イベントの企画など、こちらのキャラバンとご協力いただける団体大歓迎！！
仮設住宅支援連絡会・鈴木までご連絡下さい。

（隆太）

EVENT情報♪♪

☆週末ボランティア募集
西神南地区の仮設訪問します。
日時：10月14日，21日14時～18時
どちらも地下鉄西神南駅14時集合
☆「個人補償」の街頭署名：東京へ
22日11時～12時半JR東京駅
14時～15時　JR新宿駅
16時～17時半JR有楽町駅
17時半～街頭交流集会
問合わせ：週末ボラ795-6499(東條)
☆茶菓茶菓タイム
ボラ・参加者募集
10月16日(月)10時～12時
西区学園東町第二仮設
問合わせ：ｺｺﾈｯﾄ岡792-0236

☆西区ネットワーク「情報交換会」
西区で仮設住宅の訪問活動や安否確認活動を行うグループや担当者の情報交換会を行います。
会費：300円　　日時：10月17日(火)14～15時
会場：西区民センター2F 第5会議室
問合わせ：西ﾈｯﾄﾜｰｸ事務局961-2100(佐野)

☆からだ・こころ・ほぐしの会（無料）
マッサージ、からだほぐしを行います。
場所：瀬戸公園仮設ふれあいｾﾝﾀｰ
日時：10月14日(土)10:30～12:30
問合わせ：からころ事務局06-308-6224
＊伊丹・長田・名谷でも計画中です

情報コーナー

★毛布＆クリーニング代カンパ受付
冬に向け仮設や在宅のお年寄りに毛布を配ります。
新品かクリーニング済みの物受け付けます。また、
古い毛布をクリーニングした物との交換も行います。
その為のクリーニング代をカンパしてください。
１口1000円（毛布一枚のクリーニング代）より何口でも。
問合わせ：ちびくろ救援ぐるうぷ078-671-1442
郵便振替00930-2-55545[阪神大震災救援ぐるうぷ]

★仮設に花壇を作りたい！
三木市の仮設でお年寄りの憩いのスペースに
花壇を作りたいと思っています。プランター
種苗・園芸用土などの提供お願いします。
問合わせ：ＦＩＷＣ075-381-4070(細見)

＜仮設は今。。。＞

◇名谷第一仮設・桜ケ丘住宅◇

その一

静かな落ち着いたまちとして歩みだした名谷第一仮設を紹介します。

老人・体にハンデのある人・母子だけの世帯等六十五世帯が入居しているこの仮設には入居後四月に早くも自治会ができました。

“自分の親の世話ができるようで”と名乗りをあげた女性が中心となって共に生きる仮設の運営にあたっています。役所への要望や連絡、住民の悩み相談、近くの主婦のボランティアの調整など忙しいことです。入居者全員が毎日元気であること、この中から淋しい孤独死を出さない為に、「朝起きたらカーテンを少し開けること」を決め互いに無事を確認しあっています。区の保健婦の健康相談巡回訪問が時々ある以外は商いの訪問、自動車の進入の規制等入居者の立場を守るよう考えられています。会長より「みんなが集れるテントがほしい」と相談されちびくろ救援ぐるうぷの村井さんに依頼しました。現地を訪問されましたが土地が狭い為実現不可能となりました。そこで考えられたのがパイプ制の“すだれ集いの場”です。資金カンパやボランティアによって木製のしょうぎが出来上りました。今ではみんなの話し合いの場として利用されています。さくらんぼグループの訪問、家庭用品のバザー、茶話会、自治会のお楽しみ会などが行われています。やがて加古川のボランティアから贈られたプランターも葉ぼたんに変ることでしょう。冬にむけて仮設の防寒対策、ふれあいセンターの設置が今後の課題です。

その二

西区　仮設桜が丘住宅を紹介します。

西神中央駅より押部谷行きのバスで農業公園をすぎ山並の中を通り抜け、市営住宅前下車、道路をはさんで東と西に仮設住宅があります。四十八戸の桜が丘仮設と百二十戸の桜が丘中央仮設です。九月中旬台風が上陸する可能性があるという事で仮設の屋根をとめ金具でとめていたのは入居者達です。ここの仮設は独自の自治会組織はありませんが桜が丘ボランティア会の皆さんの支援を得て、この町の自治会に加入している人もいます。この度桜が丘にふれあいセンターが設置されました。自治会役員とボランティア会によってふれあいセンター協議会がもたれ、三十日の開所式にむけて議題が検討されました。「センターにお風呂があればハンデのある人の入浴の世話ができるのに…。仮設の風呂では介添え者が入室できない」と訴えていました。丘の上から見下ろす仮設にはごみひとつ落ちていません。ひとり、世話好きな人に出逢いました。次の訪問が楽しみです。

兵庫県震災復興総合相談センター
推進専門員　吉田　有公子

♠♤読者の広場♤♠

神戸復興新聞の吉田さんより投稿がありましたので掲載します。　皆様もどうぞ！

1995年10月6日付　神戸復興新聞「論説」より抜粋

多くのボランティア団体や、被災地の行政が高齢者や障害者を中心とする被災者に対するケアを行っています。しかし、私達が訪問したその日だけは、彼らの「心の支え」になることも可能ですが、彼らが抱えている根本的な悩みを解決しない限り、本当の助けとはなり得ないのです。

４月に初めて仮設住宅を訪問し、私が前に住んでいた東灘区の老夫婦と知り合いました。優しい表情をした老夫婦は、元の家の近所にいた私に巡り会えたことに大変喜んでいました。でも本当に喜んでいたのは、私自身だったかもしれません。私たちの記憶の間では震災前の美しかった街並がまだ生きている事でした。肉眼ではもう見ることの出来ない街並が、私たちの話題の中では鮮明に・ることが許されていたのです。その後も老夫婦は何度か親しげに語りかけてくれました。

１０月３日の朝、電車の中で新聞を読んでいると、「仮設で自殺」の文字が目に飛び込んできました。またなのか、という悔しい思いと同時に、少しずつ自分の気持がマヒしてきていることにも気付きました。とても、小さな記事であった。しかし、一つの名前が私の頭を激しくガツンと打ったのである。自殺者の名前は、まぎれもなくあの老婦人なのである。夜に帰ってきた、ご主人が遺体を発見したように書かれていた。

すぐに仮設へと向った。ご主人が疲れはてた姿を見せた。隣近所の方が「おばあさんはいつも、早くもとの生活に戻りたいと助けを求めていたんですよ。」と教えてくれた。心臓を患っていた上に、二人きりで生活している中で、ご主人の愚痴をいつも聞くのも身にしみて辛かったそうだ。「早く元の生活に戻りたい。」その言葉が頭から離れない。

日々、被災地の状況が全国に伝わりにくくなってきていることに、被災地の多くの者が心を痛めています。被災地の「本当の復興」が並大抵の事では成し遂げることが不可能だと思っています。
「本当の復興」とは街並が戻ったときに、取り残された人々が数千人いることではないはずです。しかし、現状のままでは年月が過ぎようとも、神戸は「本当の復興」を手にすることはできないでしょう。この老夫婦は、まだ戻ることが出来る土地があったのに、家があったのに。個人の力では、もう元の生活には戻れない人もたくさんいるのです。おじいさんが「もうすぐ戻れたのに・・１人だったら仕方がない・・」とぽつりと漏していた。

神戸復興新聞編集長　　吉田　裕司

事務局から

＊「じゃりみち」はパソコンを使って[M]発信を行っているので深夜に届く事があります。その為、一部の方々に大変ご迷惑をおかけ致しまして誠に申し訳ございませんでした。深くお詫び申し上げます。その他、昼間に通信希望の方は、連絡会事務局までご連絡ください。
＊事務局では、一緒に働いてくださるボラ　スタッフを募集しています。興味のある方は、ご連絡を。